

設楽の城砦めぐり

— 田内城編 —



田内城全景を望む

田内城は、田内字インベ地の豊川右岸標高三三四メートルにある独立小山に築かれ、川に突出した地形から、金ヶ崎城といわれる。

東側の豊川から、比高七二メートル、北側に深い自然の谷、西側は湿地帯で比高三〇メートル、南側が緩斜面の地形、三方を急斜面に囲まれ、眼下に豊川左岸を通る伊那道を押える軍事的要塞である。

山頂の本曲輪を中心に、北の小曲輪、西に腰曲輪、南に二の曲輪と腰曲輪、その下が大手口となる。

本曲輪に、風情ある稻荷様が祀られ、城主が領内の五穀豊穡を願う様子が偲ばれる。

戦国時代奥三河に勢力を誇った菅沼氏の一族、島田菅沼氏の伊賀守定盛が、天文年中（一五三二〜一五五五）に築城と伝わる。その後、定勝・三照と続き、三照が新城の井道に移り、廃城となる。

（愛知県文化財保護指導委員

加藤 博俊）